概要

活動地域：北海道函館市

活動期間：2015 年 4 月 1 日～継続中
活動体制：工学院大学 野澤研究室
活動キーワード：地方都市、新しい住環境価値、中心市街地活性化、観光まちづくり

2015 年度活動メンバー

B4 大貫茜子 富田俊介

地方都市における
住環境価値を考える

活動経緯

2015 年度に本プロジェクトはスタートした。初年度の今年のメインは現地調査であり、11 月に 5 日間、函館に訪れた。函館の観光名所である、函館山や中心市街地の現状を把握した。また、2016 年 3 月に開業する北海道新幹線の駅である新函館北斗駅や郊外にも足を運び、現状を把握した。現地調査までは、文献調査やデータ作成を行い、函館の状況を確認した。

活動対象地概要

函館市は、北海道の南西部、渡島半島の南東部に位置し、津軽海峡、太平洋、噴火湾（内浦湾）に面している。西からは対馬海流（暖流）、東からは親潮（寒流）が流れ込み、それがぶつかり合い、複雑な海岸線もあずかって豊富な漁場を形成している。また、市域南西部に位置する函館山を要とし扇状に広がる平野部と段丘地形、さらに北東側に広がる山岳地で構成されており、扇状に広がる平野部に市街地が形成されている。

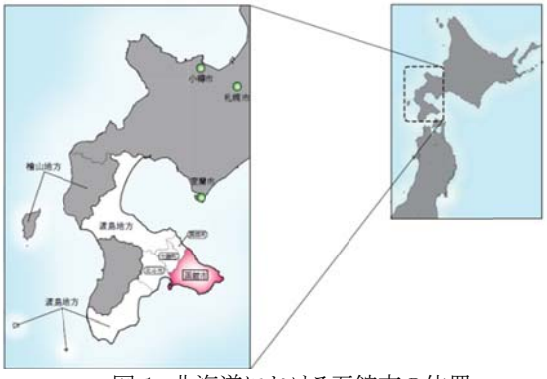

図 1 北海道における函館市の位置
（出典：『函館市都市計画マスタープラン』）

函館市の人口は、国勢調査によると、昭和 55 年の 345,165 人をピークに減少しはじめ、平成 22 年では 279,127 人となっています。北海道では、札幌市の 194,2648 人（平成 26 年 10 月 1 日）、旭川市の 347,450 人（平成 26 年 10 月 1 日）に次いで、3 番目。ちなみに、昭和 10 年の国勢調査までは、札幌市をおさえて道内一の人口であった。

図 2 地形図
（出典：『函館市都市計画マスタープラン』）

2015 年度の活動内容

◆現地調査及びヒアリング調査

1 日目：中心市街地調査、元町・函館山観光地調査。
2 日目：中心市街地調査、五稜郭エリア観光地調査、函館図書館にて文献調査。
3 日目：元町・ベイエリア観光地調査、函館市役所観光部へヒアリング調査。
4 日目：函館市経済部、函館 TMO、宅地建物取引業協会函館支部へヒアリング調査。
5 日目：郊外住宅地及び観光地調査。

◆中心市街地調査

【調査してわかったこと】

函館市は、過去から現在まで駐車場が増え続けている。

函館駅前・大門地区において、実質的な駐車場の把握は難しいと考えられる。

対象敷地内で、中心市街地の居住人口を増やすという中心市街地活性化計画は実現されつつある。高齢化率が高い。

月極駐車場は多数存在をしているが、空きが有りなどの看板が多く見受けられた。

駐車場は足りていて、困ることはない。市の職員は、郊外に行けば駐車場が、無料なことは当たり前であり、市民は無料の駐車場を求め、そこに市の十分にあると市民の駐車場の不足と考えに差が生まれたと考えられる。

2014 年　住宅地図より

◆観光地調査

【実際に函館の観光地に訪れてみて感じた事】

改めて、函館は自然、歴史、食など、たくさんの観光資源がたくさんあると感じた。函館山の夜景は圧巻であったし、五稜郭では函館の歩んできた歴史を学ぶことが出来た。また、海鮮やジンギスカンなど、食においても魅力であった。

観光地の現状だが、シーズンオフということもあり、少し寂しいと感じた。また、いずれの場所でも、周りから聞こえてくるのは中国語をはじめとする外国人観光客の話し声であった。全国的に、日本人観光客が減っていく中、函館においても、外国人観光客に対応していく必要があると、強く感じた。

今後は、北海道新幹線の開業を控えており、どれだけ観光客を獲得できるかが、函館の発展においてとても重要である。

写真1　五稜郭

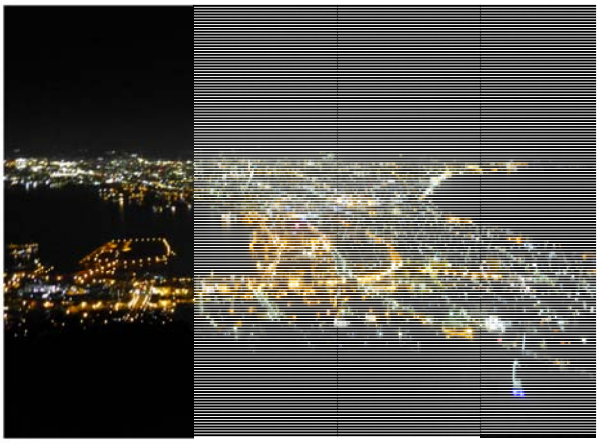

写真2　函館山夜景

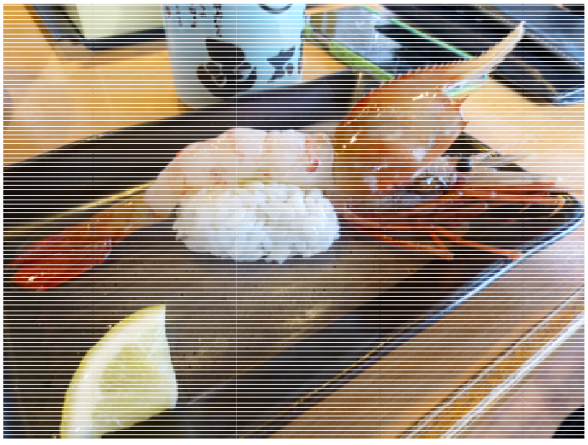

写真3　函太郎　ボタンエビ